

◆第1回 保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会◆ 開催報告

関川流域委員会の専門部会として、保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会を新たに設立しました。

第1回部会では、放水路予定地周辺等の現地視察を行ったうえで、設立趣旨等の確認や本部会における検討事項等について事務局より説明し、委員よりご意見をいただきました。

開催日時：令和6年11月13日（水）13時30分～15時30分

開催場所：ユートピアくびき希望館

内 容：●保倉川放水路事業の経緯
●本部会における検討事項
●今後の進め方（案）

委員氏名	所 属・役職等	備 考
小池 俊雄	国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター センター長	部会長
小澤 広直	長岡工業高等専門学校 環境都市工学科 助教	
佐藤 翔輔	東北大学 災害科学国際研究所 准教授	
細山田 得三	長岡技術科学大学 環境社会基盤系 教授	ご欠席
松川 寿也	長岡技術科学大学 環境社会基盤系 准教授	
松田 曜子	京都大学 防災研究所 巨大災害研究センター 准教授	WEB
八木 智学	上越市 副市長	
安田 浩保	新潟大学 災害・復興科学研究所 准教授	
山縣 耕太郎	上越教育大学 大学院 学校教育研究科 教授	

※報道関係：新聞社等 9社 一般傍聴：32名

敬称略：五十音順



現地視察の様子



検討部会の様子

保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会 設立趣旨（一部抜粋）

検討部会では、治水対策（放水路の最終的な形状、周辺環境・景観と調和が図られた施設計画等）、まちづくり（放水路を核とした新たな道路ネットワークの構築、都市施設の配置計画等）について、今後想定されるハザード（洪水、地震・津波等）情報を踏まえながら、これらハザードによる被害の最小化に向けた取組（避難の在り方、防災施設配置の在り方等）の検討を行い、流域関係住民、河川管理者、関係機関全体としての合意形成を図る役割を担うものである。

【放水路周辺まちづくりの検討の進め方】

- 放水路整備を契機としたまちづくりの観点（案）として、地域のコミュニティ形成・にぎわいの場の創出・防災まちづくりを挙げ、「水害に強いゆたかな地域づくり」を目指したまちづくり検討を周辺地域含めて地域と一体となって実施していく。
- まちづくりに関するシンポジウムを開催し、流域全体で水害に備える機運を醸成する。

地域のコミュニティ形成

放水路整備後も地域の
コミュニティの維持が可能なまちづくり

水害に強いゆたかな地域づくり

にぎわいの場の創出
新たな水辺空間による
にぎわいのある
まちづくり

防災まちづくり
流域全体で
災害に備える
防災まちづくり

裏面に続きます▶

【本検討部会における検討内容（案）】



第1回治水対策・防災まちづくり検討部会の資料等の詳細はこちらのコードからご確認くださいいただけます

①治水対策

- 整備する放水路の最終的な形状の検討
 - 河川管理施設（堤防、護岸、樋門、放水路河口部の施設、保倉川本川からの分派施設等）の形状の検討
 - 附帯施設（橋梁等）の形状の検討
- 周辺環境・景観と調和が図られた施設計画等

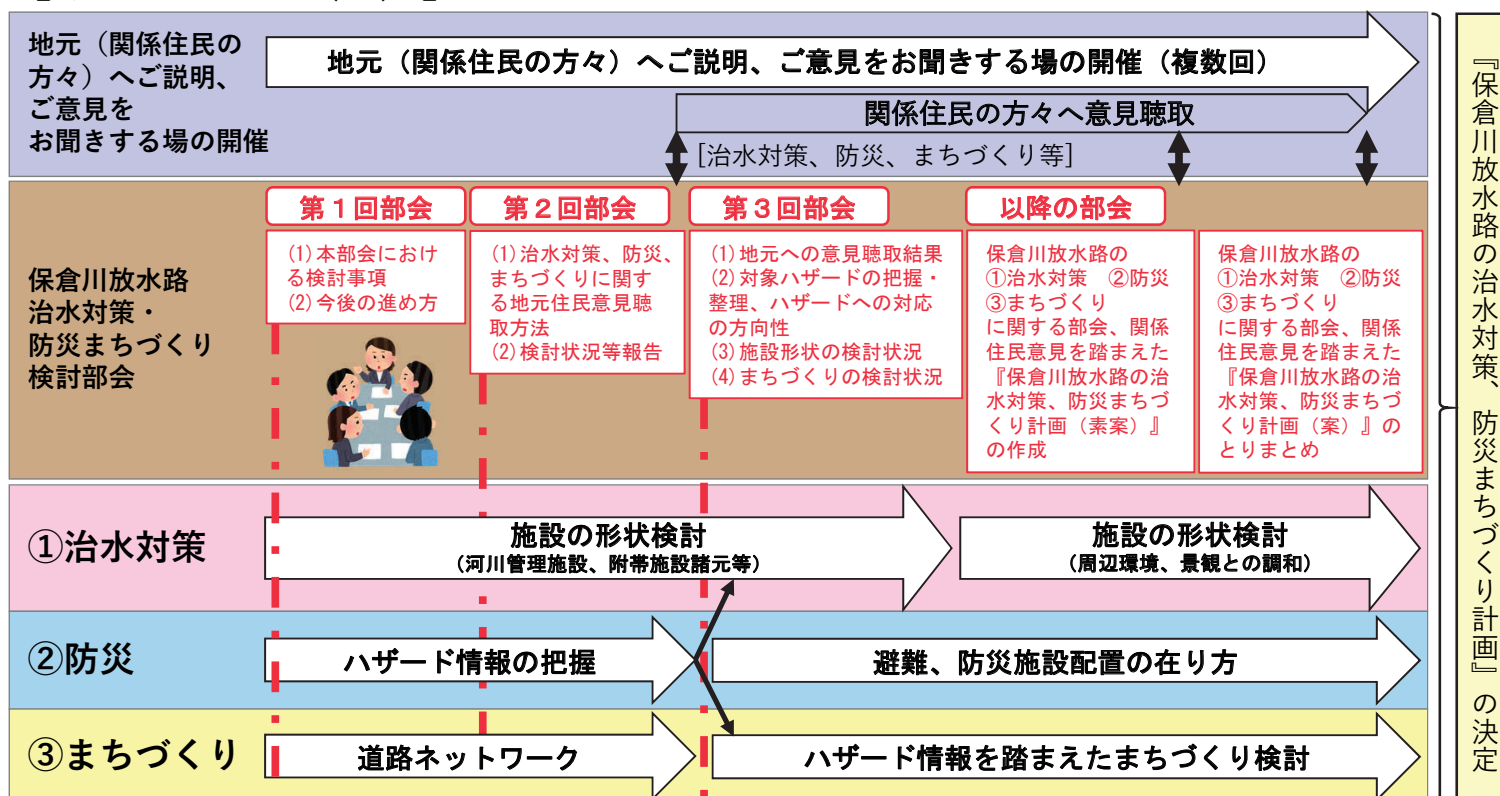
②防災

- L2津波による被害の最小化に向けた取組
 - ハザード情報の把握、避難の在り方、防災施設配置の在り方等の検討
- L2洪水による被害の最小化に向けた取組
 - ハザード情報の把握、避難の在り方、防災施設配置の在り方等の検討

③まちづくり

- 放水路を核とした新たな道路ネットワークの構築、都市施設の配置計画等
 - 放水路整備に伴い分断される道路ネットワークの再構築、橋梁の新設
 - 放水路整備に伴う土地利用の変化（農地の分断等）への対応
 - 放水路整備に伴う都市施設（公園、集落のコミュニティ関係施設等）の配置計画検討、整備
 - 放水路の水辺空間を活用した人々が集う憩いの場の創出に向けた検討

【今後の進め方（案）】



- 委員からは、保倉川放水路事業の経緯、本部会における検討事項、今後の進め方についてご意見をいただきました。
- まちづくり計画がアウトプットとなるが、そのまちづくりに盛り込まれるものは何かが重要である。L2津波に対して、強靱で持続的な社会をどのようにデザインできるかが議論の中心のひとつとなる。
- 新潟県内の他の放水路の設計の考え方や工夫を改めてレビューした上で、保倉川放水路の議論ができると良い。
- 津波遡上のスピードや避難行動の時間を勘案して、避難施設を設置しなければならない場合、それは避難のためだけの避難施設ではもったいない。多機能なものを考えていければ良い。
- 上越市が進めている持続可能な都市づくりとの親和性を損ねないように検討を進める必要がある。
- 声をあげられる方ばかりが地域にいるわけではないので、小さな声あるいは声を上げられない方を含めて、不安の中身を見ていく、そういったお手伝いをしていきたい。
- 保倉川の治水安全度は低い状況であり、下流域にある多くの企業の経済活動、また市民の生命、財産を守る保倉川放水路事業を急ぐ必要があると認識。市民から頂いている放水路の整備に伴う懸念事項について、できるだけ早く対応し、上越市も国、県の皆様と丁寧に地元の説明し、一刻も早い事業化をお願いする。
- 防災施設は多重に作っていくことが非常に大事。今回は都市計画も一緒にということで、放水路と一体になっていくことが重要である。
- 地域のコミュニティが持続できるよう検討を進め、防災によりマイナスとなることが無いよう進めていただきたい。

【部会での主なご意見】